

GLOBAL MAPPING NEWSLETTER

第6号

GTOPO30

全地球30秒標高データ

GTOPO30
Global Arc Second Elevation Data Set



1 km間隔の数値標高モデルは、地球地図の一部として利用される予定であり、主に米国地質調査所EROSデータセンターの努力で作成されました。この内容について、地球地図国際運営委員会の委員も務める米国地質調査所のウィットマー博士から以下を寄稿いただきました。

GTOPO30は、サウスダコタ州スーフォールズの米国地質調査所EROSデータセンターの職員が中心となり行われた共同作業の結果得られた全地球数値標高モデル(DEM)です。GTOPO30の標高は、30秒(約1 km)の規則的な間隔です。GTOPO30は、地域や大陸規模の地形データについて、地理空間データ利用者社会の必要性に応えるために整備されました。

GTOPO30は、1996年の終わりに完成し、3年を費やし整備されました。以下の機関が資金提供やソースデータ提供などで参加しました。米国航空宇宙局(NASA)、国連環境計画/全地球資源情報データベース(UNEP/GRID)、米国国立画像地図庁(NIMA)、米国国際支援庁(USAID)、メキシコ国立統計地理情報局(INEGI)、日本国国土地理院(GSI)、ニュージーランド・マナーキ・ウェヌア・ランドケア・リサーチ、南極研究科学委員会(SCAR)。

標高情報について8つの情報源からのデータをもとにしたGTOPO30は、詳細な全地球の地形データについて新しい標準を提供します。それまで最大の入手可能な全地球DEMは、水平メッシュ間隔が5分(約10 km)のデータでした。GTOPO30のデータは、多くの気候モデル作成、大陸規模の土地被覆地図作成、水文モデル作成のための水文フィーチャーの抽出、中・低解像度の衛星画像データの幾何・大気補正などに適しています。

GTOPO30のデータは、以下のホームページで電子的に入手できます。

<http://edcwww.cr.usgs.gov/landdaac/gtopo30/gtopo30.html>

CD-ROMもしくは8ミリテープのデータは、以下の住所宛に注文できます。

EDC DAAC User Service

EROS Data Center

Sioux Falls, South Dakota 57198

USA

電話：(605) 594-6116 (午前7:30～午後4:00中央標準時)

FAX：(605) 594-6589 (24時間)

インターネット：edc@eos.nasa.gov (24時間)

地球地図ミニフォーラム

地球地図ミニフォーラムは、1997年3月17日(月曜日)に国土地理院の地図と測量の科学館において開催されました。本フォーラムの主な目的は、地球地図の重要性を啓発し、データの調和について討議を行うことでした。

環境、測量地図作成分野の専門家やつくば地域の研究者70名以上が、同科学館のオリエンテーション・ルームに集いました。日本、米国、ヨーロッパの5名の研究者が、地球規模や大陸規模の土地利用や土地被覆データ作成プロジェクトの現状について発表を行いました。

国土地理院地理調査部長の永井氏による地球地図プロジェクトの概要の発表の後で、国連食糧農業機関のアフリカバー・プロジェクトのビエ・シャルトン博士、ヨーロッパ環境機関のCORINEプロジェクトのスティーンマン氏、アジア・リモートセンシング協会によって生まれたLCWGの建石博士、米国地質調査所EROSデータセンターのDISCOVERプロジェクトのリード博士、地球地図の本多博士が、それぞれのプロジェクトの詳細について講義を行いました。講義の後で熱心な討議が行われました。地球地図は、専門家の中で注目が高まってきているようです。

今回のミニフォーラムの注目すべき成果のうち、地球地図にとって非常に重要な成果が、分類仕様の調整の討議において作成されました。別の機会に掲載されます。

地球地図セミナーのエグゼクティブ・サマリーが国連に提出された



1996年11月に米国サンタバーバラで開催された“環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナー”のエグゼクティブ・サマリーは、1997年3月21日に日本と米国の共同で国連に提出されました。このサマリーには、セミナーで作成されたサンタバーバラ声明と宣言を取りまとめた背景と

詳細が盛り込まれています。エグゼクティブ・サマリーは、1997年4月8日～25日まで開催された第5回国連持続可能な開発委員会と1997年6月23日～27日まで開催された第19回国連特別総会で配布されました。サマリーの全文は、まもなく、地球地図ホームページに掲載されます。

第6回国連南北アメリカ地域地図会議

第6回国連南北アメリカ地域地図会議は、1997年6月2日～6日まで、ニューヨークの国連本部で開催されました。30ヶ国、2つの国連専門機関、4つの国際的な科学機関から、約90名の代表が本会議に参加しました。

国連開発援助行政管理局経済社会開発天然資源管理部部長のベアトリス・ラボンヌ女史は、開会の挨拶で日本と米国の国連代表部から国連に出された書簡に触れました。

日本の代表が、“地球地図の整備に向けて”の発表を行いました。

会議の最後に、“地球地図の整備”を含む10項目からなる決議が採択されました。その全文書を以下に掲載します。

決議第6：地球地図の整備（仮訳）

会議は、

地球地図の整備は全地球空間データ基盤(GSDI)の実現を支援することに注意し、

地球地図の整備はアジェンダ21の実施のための測量・地図分野からの意義ある貢献を強調するものであることにも注意し、

地球地図国際運営委員会 (ISCGM)などの専門家の国際的なグループの参加が地球地図整備に不可欠であることを高い評価を持って注目し、

首尾一貫した仕様を持ち、品質が検証され、一般にも利用でき、安価で配布される、地球規模の地理データセットの集合である地球地図が、地球環境問題の理解、自然災害の軽減、社会の改善及び持続可能な開発のための持続的な経済成長の実現のためには不可欠であると認識し、

カリフォルニア州サンタバーバラで1996年11月13日～16日まで開催された環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナーの要約と勧告を配布することを求めた"1997年3月21日付国連日本政府代表部及び米国代表部の国連事務総長宛書簡"を賞賛し、

ISCGMの支援と、国連との緊密な協力のもとで地球地図整備への参加を考慮するように南北アメリカの加盟国に奨励し、

1. 地球地図プロジェクトへのすべての参加者に対し、情報交換やそれによる相互作用を促進するためにインターネット等に接続される地球地図ネットワーク整備の促進に向けて、データ作成者及びユーザーによる地球地図フォーラムの設立を勧告する。
2. また、このようなフォーラムの創設を促進する第1段階として、国家地図作成機関(NMO)のなかに担当部署を設立、維持することも勧告する。
3. さらに、地球地図と様々な国家や地域的な空間データ基盤との間の既存の取り組みの強化と、新たな取り組みの確立を勧告する。

地球地図フォーラムのスケジュールが確定した

地球地図の作成者と利用者が一堂に集うフォーラムの設立は、1996年11月に米国サンタバーバラで開催された国連開発援助行政管理局、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、国土地理院主催の“環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナー”で策定されたサンタバーバラ声明の勧告のひとつとして勧告されました。同様の勧告が、1997年2月の第14回国連アジア太平洋地域地図会議や1997年6月の第6回国連南北アメリカ地域地図会議でなされました。これらの勧告を踏まえて、地球地図フォーラムが今秋日本で開催されることになりました。

本フォーラムの目的は、地球地図の作成者と利用者を一同に会し、地球地図について情報や意見を交換し、地球環境の現状を理解する手段である地球地図の整備を促進することです。本フォーラムの主要なテーマは、地球地図の利用、利用者側からの地球地図の必要性、仕様と作成者側に立った地球地図整備のための標準的手続き等についての発表です。

● 期日と会場

1997年11月12日～15日 岐阜県図書館

● 予定

12日、13日 地球地図フォーラム (入場無料)

●岐阜県図書館

14日 視察●根尾谷断層見学

15日 第3回地球地図国際運営委員会

●岐阜県図書館

● 主催者

建設省国土地理院

国連地域開発センター

岐阜県図書館は、日本のほぼ中程の岐阜市に位置しています。日本の清流の一つの長良川がこの美しい街の中を流れています。本フォーラムは、参加者の目をひきつける秋の紅葉の最高の季節に予定されています。

フォーラムの期間中、100年前の地震でできた最大縦ずれ約6mの大きな断層を見学する予定です。

フォーラムでは論文を募集し、まもなくその通知が配布されます。

11月に、岐阜でお会いできることを楽しみにしています。

詳しい情報については、地球地図国際運営委員会事務局までお問い合わせください。電話番号、ファックス番号、E-mailアドレスは、1ページ目に掲載されています。

国土地理院は、地球地図の概要を説明するためにCD-ROMを作成しました。その中には、地球環境の現状を紹介する約10分間の“ムービー”、画像と文字で地球地図を説明する“データ・ギャラリー”、CD-ROMに盛り込まれた様々な小縮尺の地球規模のデータについて“ディスプレイ”、“オーバーレイ”、“オア”等、簡単な操作をためすことができる“ラボラトリー”が含まれています。

このCD-ROMを円滑に楽に操作するには、CPU486かそれより速いCPU、利用可能なメモリー16MB以上、256色の解像度640 x 480ピクセル、Window95と互換性のあるサウンド・ボードが必要です。

このCD-ROMの入手について、地球地図国際運営委員会事務局に遠慮なくご連絡ください。

[戻る](#)